（テキスト３・第５章）

第５章　生活支援技術演習

■第１節　専門性を活かした介護過程の展開■

§１　介護過程の展開

1.介護過程に基づく介護展開（p.401）

講義のポイント

●介護過程の基本的な考え方、流れについて説明してください。

・ケアプランの「総合的な援助の方針」をふまえ、具体的で細かな日常生活動作（ADL）や生活行為に関する介護計画を立案していく（図表 5-1-1 参照）。

①アセスメント：介護職として必要な情報を整理、確認し、生活課題を明確化する。

②計画の立案：目標設定、支援内容、方法を決定する。

③実施：目標、支援内容、方法を関係する介護職員全員で共有して進める。

④評価：目標に応じた終了時に、支援内容等についてモニタリングし、次の介護計画に生かしていく。

2.介護過程の基本的理解（p.402）

講義のポイント

●介護過程の基本的な視点、姿勢について説明してください。

(1)基本的な視点――「残存能力の活用」と「個別性の高い支援」

・知識と技術に基づき「介護予防」と「悪化の防止」といった視点をもち、さらに利用者の残された能力をいかに引き出すかといった視点から介護を提供していくことが求められる。

・本人の意向を踏まえ、その生活の改善に向けた支援を計画的に行っていくことのできる思考過程が必要となる。

⑵利用者理解の基本姿勢

・障害を有する部分や「できないこと」に注目するのではなく、懸命に生きる「一人の人」として利用者を理解する態度が大切。
・利用者に関するさまざまな情報を収集する段階で、すでに介護者自身の価値観や関心のあり方が大きく影響してくる。介護者自身の物の見方、先入観、ある種の思い込みがあると、利用者の「状態」や「思い」とは、ずれた支援になってしまう可能性がある。
・利用者の生きていく意義を見出し、その充足感を高めていくには、どのように関わり、働きかけていくのか、筋道を立てて考えながら関わっていくことが必要である。

3.介護過程の必要性――「根拠」や「理由」に基づく介護実践（p.405）

講義のポイント

●介護過程を展開していくうえでの視点について説明してください。

⑴知識・経験を実践に生かす

・専門的な介護とは、なぜ必要なのか、なぜそのような方法で行うのかといったことについて、関係者、利用者や家族に対して、その根拠や理由を明確に説明できなければならない。
・介護過程という発想を身につけ、一つひとつの介護行為について、その判断根拠や理由を整理して考え、論理的に妥当性のある説明ができるよう、心がけていく必要がある。

⑵介護過程を展開していくうえでの視点

①利用者本人が「生活の主人公」である介護生活

・どのような介護場面においても、できる限り利用者の思いや意思が反映されるよう、利用者を中心とした関わり方を常に考えていく姿勢が大切。

②要介護状態における「生活の再構築」の視点

・老いや障害は、それと向かい合って暮らしていかなければならない。
・障害の克服や改善といった発想ではなく、要介護状態における利用者の「生活の再構築」という視点が必要になる。

③分析的で、段階的な状況改善――生活のなかでのリハビリテーションの視点

・介護過程を考えた介護では、一つの行為のなかに含まれるさまざまな動作とそのつながりを分析・確認し、利用者の状態に即した段階的な改善が求められる。
・生活行為一つひとつにおいても、リハビリテーションの考え方を取り入れた関わり方が必要となる。

④「結果」そのものよりも、「経過（プロセス）」を重視する

・要介護高齢者との関わりでは、死や衰えを否定的に捉えるばかりではなく、そこにいたるまでの経過（プロセス）を重視していくことが大切。

⑤「悪化の防止」が大切な視点――「過剰介護」をしてはならない

・介護度の高い人や進行性の病気を抱えた人たちの場合は、病気の進行等により身体機能の衰えがみられるようになったら、過剰介護にならないよう気をつけて、意識的に「悪化の防止」に努めなければならない。

4.介護過程の流れ――介護過程を構成しているもの（p.409）

講義のポイント

●介護過程の構成要素について説明してください（図表 5-1-2 参照）。

・介護過程は、アセスメント、計画の立案、実施、評価といったプロセスから構成され、このプロセスをくり返すことによって質の高いサービスを実現していく。

・この一連の流れが、意識的な目で観察され、知識に基づき解釈・分析され、そのうえで実践が的確になされていかなければならない。

■第２節　総合生活支援技術演習（事例による展開）■

＜内　容＞
生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。
〇事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（１事例 1.5 時間程度で上のサイクルを実施する）
〇事例は後例（片まひ、認知症、要介護１、座位保持不可）から２事例を選択して実施

ここでは、**片まひ**、**認知症**、**自立度が高い**、**寝たきり状態**の４事例を通して、具体的な介護内容や介護の留意点を理解できるようにします。
以下のポイントをふまえて指導してください。

コメントの追加 [F1]: 表現統一されていませんが、よろしいでしょうか

①事例紹介から、利用者の置かれている環境、現在の状況や気持ち、家族の思いなど全体像を捉える。
②想定される介護サービスにおけるポイントを参考に、演習１に進む。
③事例ごとに３場面を設定しており、日常生活における移動、食事、排泄（はいせつ）、入浴、着替えや外出の身じたく、睡眠、家事などの場面において「自立支援」「安全と安心」「尊厳の保持」の観点と介助の留意点を踏まえて、適切な介護方法を考える。
④さらに支援すべき課題を導き出し、根拠に基づいた介護方法を考える。
⑤演習後に、難しかったところをまとめ、各種生活支援技術における課題を整理する。
⑥各事例のまとめを行う。
⑦演習２として、アセスメントの意義や視点を確認するために、それぞれの事例における生活行為や生活動作の確認すべき点、留意点を整理する。
⑧事例における全体像を振り返り、今後の課題などを推測する。

【事例１】

1.事例概要（p.412）

・受講者に読み上げてもらいましょう。

2.日常生活の状況（p.413）

・専門的な内容は補足説明を加えながら、日常生活の状況を読み上げてください。
・意味がわからない用語などはないか受講者に確認し、あれば説明してください。

3.Y さん本人や家族の思い、今後の支援の方向性（p.413）

・受講者に読み上げてもらいましょう。

4.片まひ、失語症がある利用者への介護サービスにおけるポイント（p.414）

・１点ずつ読み上げながら、必要な部分については補足説明してください。

5.総合生活支援技術演習（p.414）

（1）演習 1――具体的な場面の設定

・場面ごとに、数名の受講者に読み上げてもらいましょう。
・わからないところはないか、質問はないか、受講生に確認しましょう。
・テキストの囲み内の項目について、整理してください。

（2）場面の考察

・受講者に読み上げてもらいましょう。

6.場面における介護ポイント（p.418）

●実技（1～3）

・テキストに沿って進めてください。場面1～3まで、別の受講者に行ってもらいましょう。
・間違った方法、危険なやり方をしていないか、また、よい点などがあったら、最後にまとめて指摘できるように、メモなどにまとめてください。

（1）演習２――グループワーク

・グループ内で進行役と記録係を決めます。
・話し合いの時間、発表の時間などタイムスケジュールを伝えてください。

7.「支援の全体像」を話し合う（p.424）

・テキストの内容に沿って進めてください。

【事例２】～【事例 4】

・【事例 1】と同様に進めてください。